

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立平原小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>唐津市学力向上指定校（R5年度発表）として、浜玉校区で話し合いを進めている。学力向上では、これまでの取組を継続するだけでなく、家庭とも連携しながら新しい方法を模索し課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。</li> <li>キャリア教育の理解・充実に向けて、教育課程内でできることを明らかにして児童のキャリアアップを支えていく。</li> <li>心の教育では、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を柱として、学校が組織的・具体的に対応できるようにしていく。さらに、学校の特色を活かしながら、児童の自己肯定感が高まるような機会を多くつくっていく。挨拶のさらなる推進と言葉遣いの指導を行っていく。</li> <li>保護者、地域連携では、家庭学習の充実、「進んで挨拶する」「自分の考えを伝える」「言葉を大切に使う」という基本的な生活習慣の確立に向けて、生活習慣点検週間を設けるなど、保護者にも周知を図りながら全校的な取組を今後も積極的に実施していく。また、学校に定着した「ひまわり」「メダカ池、ホタル川」の充実を図り、情報を発信していきたい。</li> <li>健康・体づくりについては、外で元氣よく遊ぶことの奨励とともに社会体育での頑張りについても学校で積極的に紹介していくなど、継続して連携を図っていく。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	自ら学び、心豊かにたくましく生き抜く平原っ子の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>思いやりの心をもち、ふるさとを愛し、自らの夢を育む子どもの育成</li> <li>小規模学級・学校の強みを活かした学力向上への取組（自力解決力と振り返る力の育成）</li> <li>職員の協働意識と学校運営への参画意識を高める「チーム平原」の強化（共通理解と共通実践）</li> <li>保護者・地域・外部の人材とのさらなる連携強化</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・小中9年間をとおして主体的に学び続ける児童の育成に関する取組について、浜玉校区で情報交換を行い、自己実践の改善を継続して行う。 ・校内研あるいは公開授業で1人1回は必ず研究授業を行い、全教職員で授業研究会を実施する。							
	○単元終末の活動を見据えた計画の児童との共有 ○児童の思考を促す交流活動の工夫 ○タブレット利活用の促進	○ラーニングマウンテンを複数回実施した教師80%以上 ○児童の意識調査で、交流活動に対する肯定的な回答80%以上 ○タブレットを用いた表現活動を複数回実施した教師80%以上 ○児童の意識調査で、タブレットの技能が向上したと感じる	・ラーニングマウンテンの型を共有し、それに基づいた実践を提案する。 ・児童のメタ認知を高めるためのつなぎ言葉に注目した交流活動を行う。 ・児童に係るタブレットの技能向上を図るため、タブレットを用いた表現の実践事例を交流し、アイデアを共有する。 ・挨拶運動等を推進し、児童の良さや頑張りを称賛・肯定する。							学力向上担当 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権や道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が80%以上	・人権集会や道徳科の授業を通して、互いを尊重し合うことのできる児童の育成を図る。 ・全職員共通理解のもと言葉遣いを指導し、授業中は「さん呼び」の徹底を行う。 ・縦割り班活動を通して、思いやりの心を育てる。							人権・同和教育担当 道徳担当
	○いじめの早期発見・早期対応体制の充実	○いじめ防止について組織的な対応ができていないと回答した教員80%以上	・毎月児童に「月のこころ」のアンケートをとる。 ・学級や児童の様子を観察し、随時個人面談を行う。 ・毎月職員生活打合せを行い、いじめの早期発見に努め早期解決につなげる。 ・毎月人権について考える全校集会や道徳の授業を通してお互いを尊重し合う児童の育成を図る。 ・保護者やSC、SSWとの連携を行い教育相談体制を充実させる。							生活部・教育相談担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	「規則正しい生活をしている」と答える児童80%以上	・廊下の傘や掲示物などについていいところを紹介し、友達や教師から認められていると感じる場面を作る。 ・学校行事や縦割り班活動の際に司会や交流の場を積極的に設け、発表の機会を設定し、活躍の場を作る。 ・教師は子どものいいところや頑張っているところを積極的にほめる声掛けを行う。 ・子どもが自分のいいところや得意なことを見つけ、活躍の場を設定することで能力を伸ばす。							特活部
	○運動習慣の改善や定着化	○休み時間や昼休み、下校後などに進んで運動をしているかについてのアンケートで、肯定的な回答をしている児童80%以上	・学校で生活指導を行うとともに、生活習慣はなまる運動等で保護者と児童と一緒に生活を見直す機会を設け意識啓発を行う。 ・夏休み明けに生活状況調査を実施する。 ・栄養教諭と連携し食育や食に関する意識調査を実施する。							保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「効率的な業務に取り組んでいる」と自評する割合80%以上	・各自のライフスタイルに合う定時退勤日を設定し、徹底する。 ・会議資料を可能な限りデジタル化したり事前に内容を確認したりすることにより会議準備及び会議時間を短縮する。 ・職員掲示板機能を有効に活用し、連絡会の内容を効率的に伝達する。							教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関して、職員が「理解している」と回答する割合80%	・月1回の「生活打合せ」において特別支援学級在籍の児童の様子について情報共有の時間を設け、職員全体で指導にあたる。 ・随時、「支援会議」を開催し、学校での児童の様子や保護者の願いを共有する。 ・特別支援に関する校内研究会を開催する。							

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--